

『新修名古屋市史』第1巻「古墳時代」執筆から20年。今あらためて…。

「上志段味の古墳群を考える」

講師：犬塚康博氏

志段味の自然と歴史に親しむ会 10月例会
見晴台考古資料館友の会セミナーとして開催

※どなたでも参加できます。参加費無料、若干の資料代のご協力をお願いします

日時：10月1日（土）午後2時～4時

会場：守山生涯学習センター視聴覚室

（ゆとりーとライン「守山」、市バス「守山自衛隊」、名鉄瀬戸線「守山自衛隊前」すぐ）

名古屋市守山区上志段味では、古墳時代を通して造墓がおこなわれました。前期の大型前方後円墳を含むことから、その地域（ローカリティ）の造墓だけではない、広域（トータリティ）を背景とした造墓がおこなわれていたのではないかと世の人の関心をひき、旧藩領程度の「国」つまり「尾張」が幻想されてもきました。

上志段味におけるローカリティとトータリティの二つの項目に関しては、これまでに、(1) 二系列として、(2) トータリティにローカリティが従属する関係として、(3) トータリティー辺倒として、理解されてきています。

今回は、一つに内在するローカリティとトータリティの二項の矛盾の運動として、この地域の古墳時代史を構造的にとらえかえしてみました。これに際して、「墓域」に注目して、方法的に東谷山山峰と東谷山西麓段丘とに分ち、それぞれの造墓集団をしてトータリティ、ローカリティがいかに表象せしめられていったかを追跡しています。その結果、ローカリティとトータリティは複雑に盛衰し、トータリティにおいて上志段味が後景化してゆく理路の一端を知ることができたことなどをお話します。

なお、このテーマ「上志段味の古墳群を考える」は、去年10月例会「長谷川佳隆氏と歴史の里」の続編になります。また、瀬戸市東谷山山頂遺跡の後期弥生土器片の紹介をします。

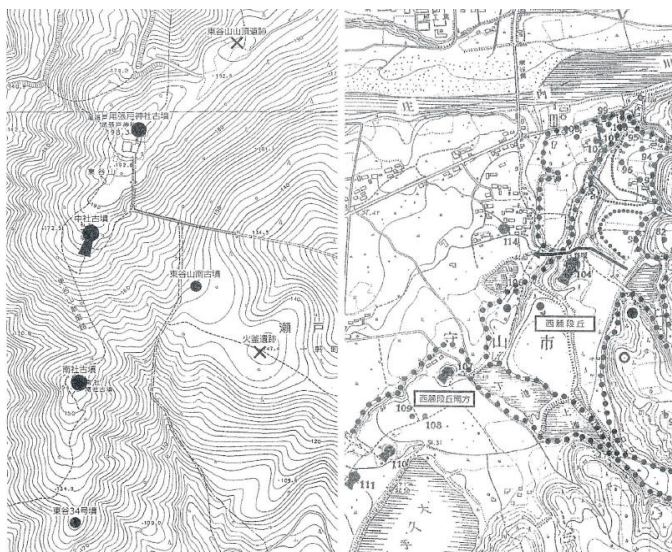


図2 東谷山山峰の墓域図 (1/5,000)

図3 東谷山西麓段丘の墓域概念図 (約1/10,000)

当日の講演資料から

（裏面講師紹介、会場案内）

講師は、志段味の自然と歴史に親しむ会創設メンバー、現世話人のひとり。中学・高校生のとき見晴台遺跡第8・9・10次発掘調査（1969・1971・1972年）に参加し、のち名古屋市博物館などに勤務。博士（文学）。近著には『藤山一雄の博物館芸術——満洲国国立中央博物館副館長の夢』（共同文化社、2016年）、『反博物館論序説——20世紀日本の博物館精神史』（共同文化社、2015年）。『新修名古屋市史』（共著、名古屋市、1997年）、『戸山屋敷銅鐸考』（名古屋市博物館、1992年）のほか多数の論文を発表。



（講師近著の2冊）

会場案内図



公共交通機関

○大曾根ゆとりーとラインのりばから乗車、「守山」下車。（敬老パス可、一日乗車券不可）

大曾根バス時刻表 12:40 :50 13:10 :20 :30 :40 (10分おきにあり)

○大曾根バスロータリー1番のりばから「緑ヶ丘住宅」行乗車、「守山自衛隊」下車。

大曾根バス時刻表 12:12 12:42 13:12 13:42 発 (30分おきにあり)

○名鉄「栄町」・「大曾根」駅から普通で名鉄瀬戸線「守山自衛隊前」駅下車

名鉄「栄町」駅からの時刻表 12:30 12:45 13:00 13:15 13:30

名鉄「大曾根」駅からの時刻表 12:39 12:54 13:09 13:24 13:39 (15分おきにあり)